

2020年9月18日

令和2年度第3回理事会開催あいさつ

～EAS機器と防犯カメラの工業会として認定個人情報保護団体に申請～

工業会 日本万引防止システム協会 (JEAS)

会長 稲本 義範

会員各位に於かれましては、コロナ禍の全体としては極めて厳しい経済情勢のなか、さらには半期末のご多用のなか、本日の理事会にご参集いただき有難うございます。理事会の議事に先立ち、一言ご挨拶を申し上げます。

JEASは、皆様のご支援のお蔭で、設立から18年目、現在の名称になってから9年目を迎えております。創立時は実質10数社から出発させていただきましたが、現在、総会員数45社になっており、このあと新規会員への会員証の授与が行われ、また、新たに新規会員の入会審議があります。このように新規入会が続いておりますが、逆にこのような時ほど初心に帰り、JEASの存在意義と関係の皆様への感謝を再確認する必要があると感じております。

私たちは「EAS機器が安全でロス削減に役に立つシステムである。」ことを店舗の皆様や地域の皆様にご理解いただく活動からスタートしました。EASの検知力はかなり向上しましたが、それでも100%ではありません。アラーム発報時の声掛けは勇気のいることですし、商品へのタグ付けは忍耐と工夫が必要です。さらにはペースメーカーなどの医療機器装着者様の安全を確保するため、昨年も多くのEAS機器が専門機関で試験を受け、JEASより認定証を発行しています。そのようなユーザー様と我々の努力の結晶がこのEASステッカーを誕生させたと思っております。



同じく、顔認証システムも認識率100%の性能ではありません。各社の開発陣の奮闘で性能面が格段に進化し、マスク装着者の検知率も驚くほどに向上していますが、それでも100%ではありません。顔画像などの登録については、従来と比較し、より簡易になりましたが、すべて自動化されたわけではありません。さらには、顔画像という紛れもない個人情報を取り扱うため、その安全性を高めるために、JEASでは本年度、推奨顔認証システム制度を開始しました。



2020年9月18日

本年6月の推奨認定試験には私も参加しましたが、指摘事項がゼロだったシステムはありませんでした。その事実を鑑み、私は設計段階で想定される問題点への対処ができれば、より高い安全や個人情報保護が実現できるのではないかとこの考えに至りました。

そのためには個人情報保護委員会や経済産業省などのご指導をいただき認定個人情報保護団体になり、PIA プライバシー影響評価的要素を認証制度に組み込んでいくことが必要だと考えます。そのことがSDGsの11番目の目標である「安全な暮らし実現」と16番目の「平和で公平な社会の実現」につながると思います。それを意味するこの胸の国連・京都 कांग्रेस（第14回国連犯罪防止刑事司法会議）バッジに恥じない様な推奨顔認証システム制度に育てる責務を感じています。



今後も100%ではないEAS機器・顔認証等の画像システムの安全性を担保しながら、皆様から「(お店や図書館には)無くてはならないEAS、地域の人々の安全安心顔認証」と言っていただけのためにも、15分間勉強会、JEAS講習会、各種セミナー、対話と調査研究を継続していきます。

なお、認定個人情報保護団体になったあかつきには、関係者の対話力向上を目的に、裁判外紛争解決ADRセミナーを開催したいと考えております。

今まで以上に、店舗の皆様から、地域社会から頼りにされる工業会・工業会メンバーであることを願っております。引き続き、理事、会員各位、特別会員の先輩諸氏と共に歩んでまいります。皆さま、ご指導・ご協力をお願いします。

以上です。

～防犯民主主義実現に向けて～

EAS機器と防犯カメラとロスプリベンション推進のための工業会

**JEAS**

工業会 日本万引防止システム協会 (JEAS)